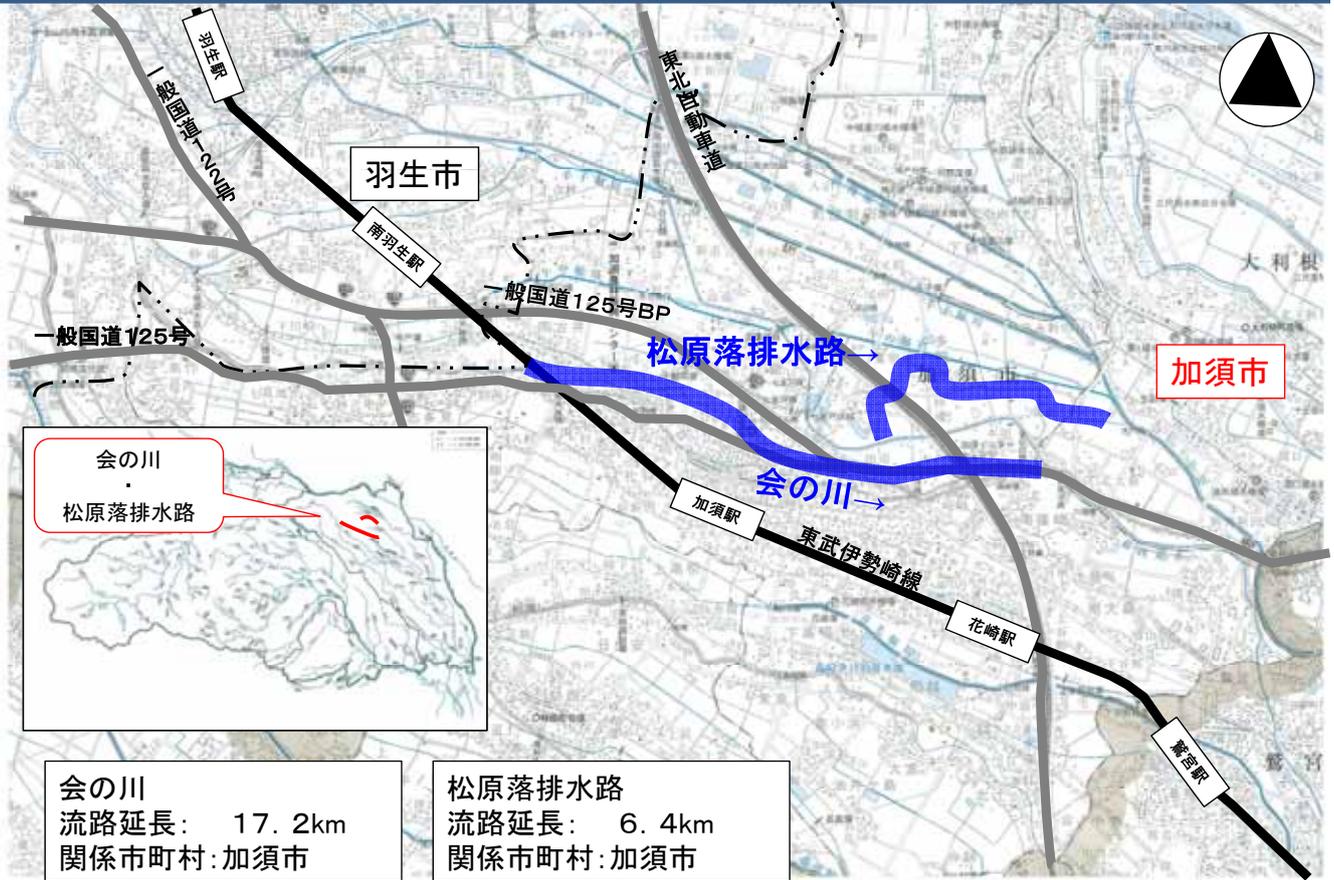


会の川、松原落排水路の概要



加須市
(会の川)

加須市の中心市街地を流れる会の川は、江戸時代から「灯ろう流し」が行われ、昭和30年代から昭和40年代には「市(いち)」が開催されるなど、市民に広く親しまれてきました。この会の川の護岸や関連する施設を整備し、うるおいとふれあいの空間を創出することで、新たな交流と賑わいが生まれ、活力ある市街地が形成されます。

また、市街地を流れる水辺空間として、加須市で策定した「会の川沿線整備計画」に基づき、地域住民の安全性や利便性の向上を図ります。

市町村域とまちづくり・川の関係(案内図)



まちづくり等の課題

- 市街地を流れる会の川は、加須市の歴史・文化の軸となる空間であるが、護岸の老朽化、狭小な道路、川の汚れなど暗いイメージが先行し、その環境を十分に活用できていなかった。
- 加須駅近くには会の川親水公園があるものの、その他には休憩場所などがなく、会の川を線として捉えた場合、気軽に市民が集うことのできる場所がなかった。

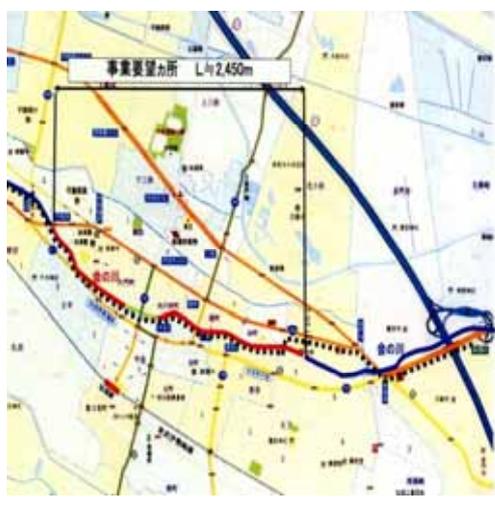
目標・テーマ

- 加須市の中心市街地の貴重なうるおいとふれあい空間の創出します。
- 灯ろう流しや市(いち)の開催などにより、歴史・文化を継承した、にぎわいと活力あるまちを目指します。
- 地域住民が安全・便利を実感できる水辺空間を創出します。

県に実施してほしい取組(1)

会の川は市街地内の貴重な水辺空間として、地域住民の散策路・サイクリングコースとして活用されていますが、護岸構造・老朽化等による崩落・陥没が生じています。このため、安全確保のための護岸工事と、生態系に配慮した景観ブロック・魚巣ブロック等整備、水辺に親しむ張り出し護岸工事などにより、水辺をより身近に感じる市民のふれあいの空間と、「会の川沿線整備計画」に基づいた市民の安心・安全空間を創出します。このことにより、市内外から多くの方が訪れ、会の川を中心とした市街地の活性化を図ることができます。

位置図



会の川の状態(柵板が外れている)



会の川の状態(護岸の老朽化により、道路の下に空洞ができています)

実施してほしい取組の概要

- 景観・生態系配慮の自然石風ブロック・魚巣ブロックの整備。
- 水辺を身近に感じられるとともに、安全性や利便性を確保するため、張り出し護岸による道路環境整備。
- 昔から行われている灯ろう流しにも利用できる施設整備。
- かつての会の川桜の復活や植樹樹の整備など、水辺の緑化。
- 冬期通水の確実な実施。

工程表

	H24	H25	H26	H27
護岸整備	調査・設計	護岸整備	護岸整備	護岸整備
付帯施設整備	調査・設計	施設整備	施設整備	施設整備

加須市では、「会の川沿線整備計画」を定め、市民の安心・安全を確保するため土地改良区と連携し、うるおいとふれあい空間の創出や地域住民の安全性、利便性の向上に向けた整備を進めています。また、「マルシェde加須」開催やサイクリングコースの一部に位置づけるなど、その活用に努めています。しかし、この様に活用できる場は一部でしかないため、会の川を線的に活用することで、市街地の活力を増すとともに、市民が安心・安全を実感できる会の川を実現します。

位置図



休憩施設(イメージ)



会の川親水公園

事業等の概要

- 観光客を誘致するため、観光ガイドマップなどの印刷。
- 散歩、サイクリング、観光などの誘導看板や、会の川を紹介する看板設置、休憩施設などを地元と協議し整備。
- イベント開催可能な空間の創出の検討。
- レンタサイクル事業を継続的な実施。
- 水質浄化につながる下水道の加入促進。

工程表

	H24	H25	H26	H27
観光ガイドブック作成	ガイドブック印刷	ガイドブック印刷	ガイドブック印刷	ガイドブック印刷
看板、休憩施設	検討	休憩施設等工事	休憩施設等工事	看板設置工事
レンタサイクル	レンタサイクル事業	レンタサイクル事業	レンタサイクル事業	レンタサイクル事業

地域連携・維持管理等の概要

人が訪れやすい環境づくりに関わる地域連携の仕組みなどを検討します。自治会の環境美化活動を支援するため、花壇の維持管理に関する補助金を引き続き交付するとともに、清流を取り戻すため、河川浄化対策協議会による清掃活動を支援し、市民との協働のまちづくりを推進します。

体制図

「会の川」活用検討会議(案)

加須市、見沼代用水土地改良区、向川岸町、睦町一丁目、北小浜、中央2丁目、本町、東栄2丁目、久下3丁目自治会、加須商工会、加須青年会議所、昭和中学校、加須小学校

(現状)

- 地元自治会により花壇の維持管理及び清掃活動
- 河川浄化対策協議会による会の川清掃活動
- 江戸時代から続く北横町の子育て地蔵尊祭り(「灯ろう流し」など)
- 商工会による「マルシェde加須」の開催

地域連携の概要

- 会の川の整備にあたっては、沿線の安全・安心の観点から「会の川沿線整備計画」に基づき、沿線の自治会等と広く意見交換して検討します。
- 市民が中心となる花壇、休憩施設の維持管理の支援をします。
- 河川浄化対策協議会による清掃活動を引き続き支援します。
- 「マルシェde加須」などの会の川での継続的なイベント実施の支援。(市(いち)の開催促進など)

取組全体のアピールポイント

- 加須市では、市民との協働によりまちづくりを盛り上げることが重要であると考えています。
- 本取組みは、会の川を含めた整備により、人が触れあう場づくりを目指すものです。
- 現在、地元自治会や河川浄化対策協議会による、維持管理・清掃活動などが市民主導で行われており、これらの活動を広げることが容易な地域です。
- 将来的には、会の川全線の整備を促進し、会の川沿いの貴重な歴史・文化を後世に伝えることのできる仕組みづくりとしていきたいと考えています。

加須市 (松原落排水路)

「浮野の里」の保全による地域づくり

様式-2

加須市には、希少植物が自生し、新田開発の名残をとどめる田堀、クヌギ並木等の昔ながらの田園風景を残す「浮野の里」があります。平成20年には、「緑のトラスト保全第10号地」として指定され、「埼玉県」及び「葦の会」、「(財)さいたま緑のトラスト協会」と共に保全に向けた整備を進めてきました。

この「浮野の里」とこの地を流れる「松原落排水路」を一体的に整備することにより、多くの人がこの地の自然の大切さを理解してもらえるとともに、水辺に親しみ、安らぎとふれあいが生まれる空間を創出され、将来にわたり多くの人が参加した「浮野の里」の保全活動が行われる活力ある地域づくりを推進します。

市町村域とまちづくり・川の関係(案内図)



まちづくり等の課題

- 「浮野の里」の中心を流れる松原落排水路が整備されていないため、護岸が崩れ周辺への影響が懸念されるとともに、景観が損なわれていること。
- 「緑のトラスト保全第10号地」として指定され、保全に向けた環境整備を進めてきたが、貴重な地域資源を十分に活用できていないこと。

目標・テーマ

- 「水の郷」百選に認定され、「緑のトラスト保全第10号地」に指定された、自然や農村景観が残るこの地域において、地域住民やボランティアスタッフ(トラスト協会)とともに「憩いと安らぎの場」づくりを進める。
- 「浮野」とともに自生する希少植物の「トキソウ」などは、埼玉県天然記念物に指定されており、これらの貴重な資源を保全できる地域づくりをする。
- 農耕文化の遺産ともいえる田堀、クヌギ並木、屋敷林などの保全活動を行うとともに、これらの資源を活かした活気に満ちた地域づくりをする。

加須市の「浮野の里」は、「トキソウ」や「ノウルシ」などの貴重な植物が生息し、田掘やクヌギ並木などの昔ながらの田園風景が残る地域であり、「緑のトラスト保全第10号地」にも指定されており、ふるさと埼玉の緑を後世に引き継がなければならないものです。この保全地を流れる松原落排水路を景観に配慮した護岸等の整備をすることにより、一体とした保全が可能になるとともに、市民の憩いと安らぎの場となり、市内外から多くの人が集まり賑わいが創出され、地域の活性化を図ることができます。

位置図



松原落排水路の現状(法が崩れている)



松原落排水路の現状
(クヌギなどの木の根元まで侵食)

実施してほしい取組の概要

- 「トラスト保全地」にふさわしい「浮野の里」に溶け込む多自然型の護岸改修、人道橋整備、転落防止柵設置、ガードレールから景観に配慮した防護柵への付替え。
- より水に親しむことができる場所を確保するため、松原落排水路において田舟遊覧を行うことのできるよう、堰や船着場、水路断面の確保。
- 地域の方と協議・調整し、護岸改修による余剰地を活用し、あやめやクヌギなどの植樹、遊歩道などの整備。

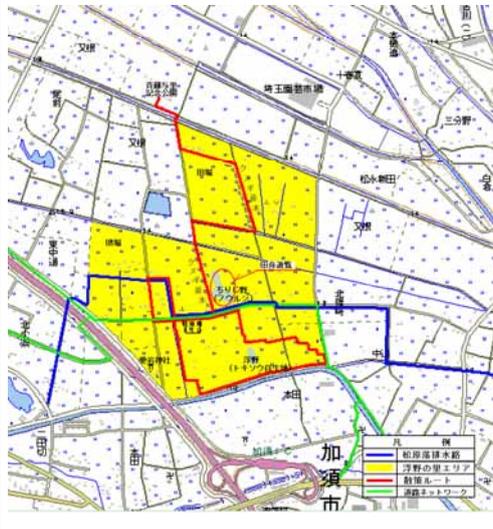
工程表

	H24	H25	H26	H27
護岸等整備	基本設計	護岸・柵工事	護岸・柵工事	堰・遊歩道工事
付帯工整備	協議・設計	人道橋設置	水位調整施設 あやめ・クヌギ植樹	船着場工事

市町村が取組む事業等の概要(浮野の里地区)

「浮野の里」は、貴重な自然や歴史的資源が残り、「水の郷百選」や「埼玉緑のトラスト保全第10号地」に指定された場所です。これらの資源を保全するため、「埼玉県」及び「葦の会」、「(財)さいたま緑のトラスト協会」と共に保全に向けた整備を進めてきました。しかしながら、この地を後世に残すための整備が十分ではないこともあり、保全地の整備充実に努め、継続的かつ活発な市民やボランティアスタッフ(トラスト)による保全活動を支援します。

位置図



道路ネットワークの充実



看板設置イメージ

事業等の概要

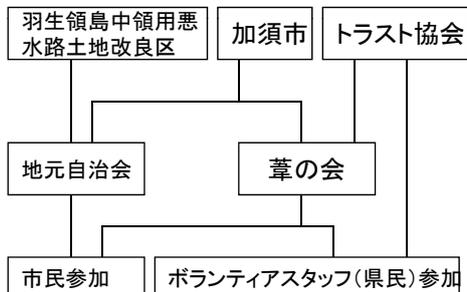
- 市内外への情報発信のための「浮野の里」、観光案内、サイクリングロード等のパンフレット印刷。
- 「浮野の里」の中の案内看板、駐車場、散策路などについて「葦の会」などと協議し整備・充実を図る。
- 車、自転車、歩行者など全てに対応した「浮野の里」への道路等ネットワークなどの周辺環境について、地域と協議し整備・充実を図る。

工程表

	H24	H25	H26	H27
パンフレット等作成	パンフレット印刷	パンフレット印刷	パンフレット印刷	パンフレット印刷
「浮野の里」内充実	地元調整	看板設置	関連整備	
周辺環境整備	地元調整	散策路整備	アクセス道路整備	サケス道路整備

「浮野の里」は「緑のトラスト保全第10号地」として、「葦の会」を中心に地域の方やボランティアスタッフ(トラスト協会)などの協力を得てこの地の保全活動が行われています。この地を次世代に引き継ぐため、「トラスト協会」とともに保全活動への支援を引き続き行うことにより、市民やボランティアスタッフ(トラスト協会)などが中心となった継続的な保全活動の実施に努めます。

体制図



「葦の会」・地元自治会により現在継続的な維持管理活動が行われており、保全活動には、市内外から多くのボランティアが参加している。
毎月、草刈などの保全活動を実施。

地域連携の概要

- 「浮野の里」の貴重な資産を後世に残すため、「葦の会」・地元自治会・トラスト協会などと検討を行います。
- 継続的な保全活動が実現できるよう、「葦の会」などへ引き続き支援を行います。
- 整備された水路などの維持管理を「葦の会」・地元自治会などとボランティアスタッフ(トラスト協会)により行います。

取組全体のアピールポイント

- 「水の郷」百選に認定され、「緑のトラスト保全第10号地」として指定された「浮野の里」の保全活動により、地域などが主体となった活動が活発に行われ、地域の活性化が図られる。
- 「加須市の浮野とその植物」として埼玉県天然記念物に指定された貴重な資源を保全できる。
- 絶滅危惧 類に指定された「ノウルシ」が保全できる。
- 「田掘、クヌギ並木、屋敷林などの加須市の昔ながらの田園風景を後世に残すことができる。
- 松原落排水路の整備より、更なる景観形成が可能になるとともに、排水機能の向上による溢水被害の軽減により地域の生活環境の改善が期待される。